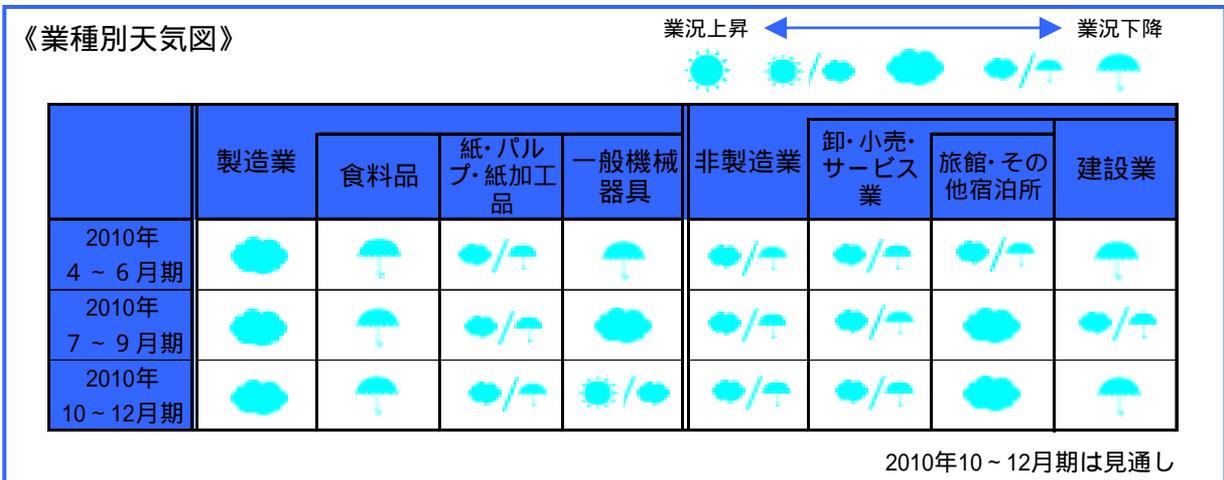
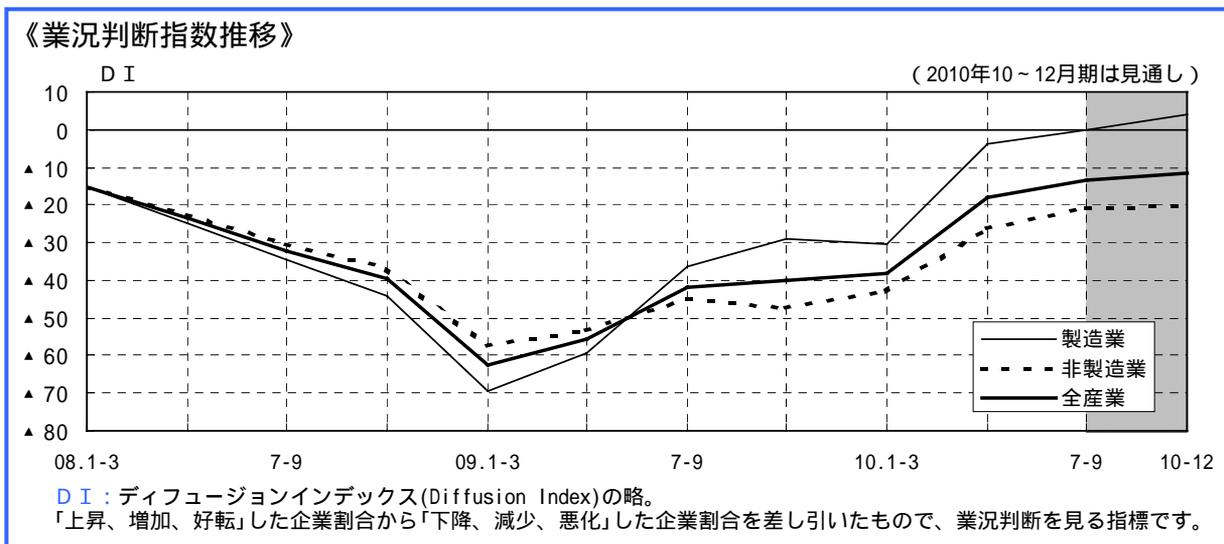


業況概要(自社) ～ D I は引続き上昇、製造業はマイナス水準を脱する～

静岡県東部地域における2010年7～9月期の業況判断D I (対前年同期比)は全産業で▲13.4 (前期▲17.9)となり、引続き上昇している。うち、製造業の業況判断D Iは0.0 (同▲3.8)となり、2007年7～9月期から続いてきたマイナス水準を3年ぶりに脱した。一方、非製造業でも▲20.6 (同▲26.1)と上昇傾向は続いているが、依然製造業との差がやや目立っている。

2010年10～12月期の予想D Iは全産業で▲11.8 と緩やかながら引続き上昇を見込んでいる。うち、製造業は4.0とプラスに転じ、非製造業では▲20.1と上昇幅は鈍化傾向にあるものの今期比上昇を見込んでいる。



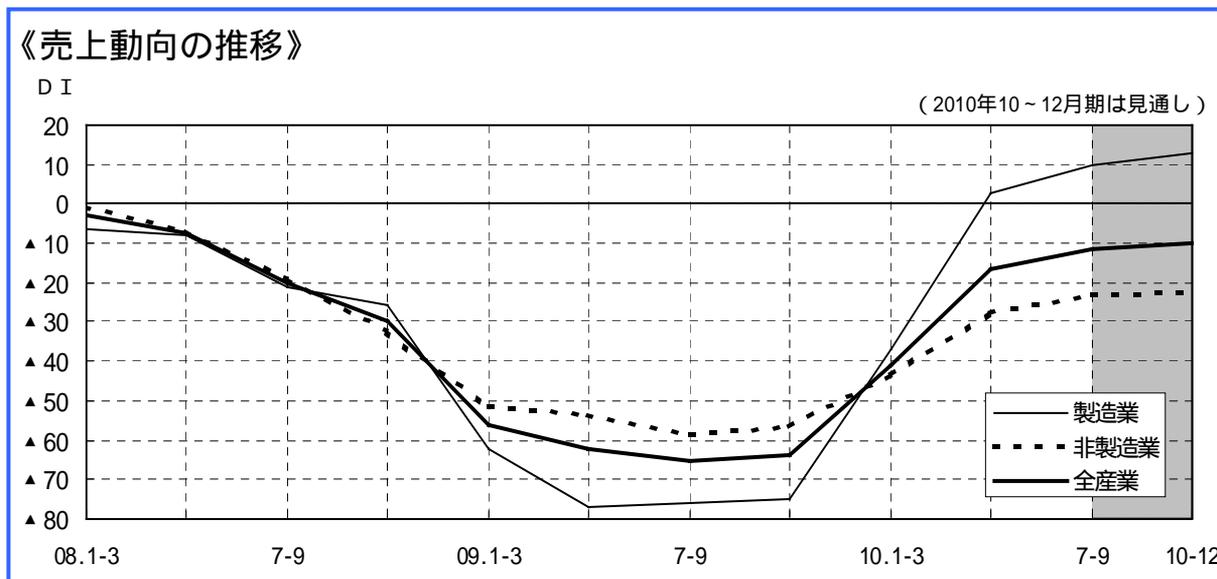
《調査の概要》

- 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 1,050社
回答数 290 (回答率 27.6%)
業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績:2010年7～9月期
見通し:2010年10～12月期
- 調査時点
2010年8～9月

売上動向 **D Iは緩やかながら上昇傾向を持続**

2010年7～9月期の全産業の売上動向D I（対前年同期比）は▲11.5（前期▲16.5）となり、前期までのD Iの大幅な改善は一段落したものの上昇傾向を持続している。製造業では食料品や紙・パルプ・紙加工品などでD Iが低下したが、一般機械器具で大幅に改善し、全体D Iは10.0（同▲2.8）に達している。また、非製造業でも旅館・その他宿泊所などでD Iが上昇し、全体D Iは▲23.0（同▲27.9）となった。

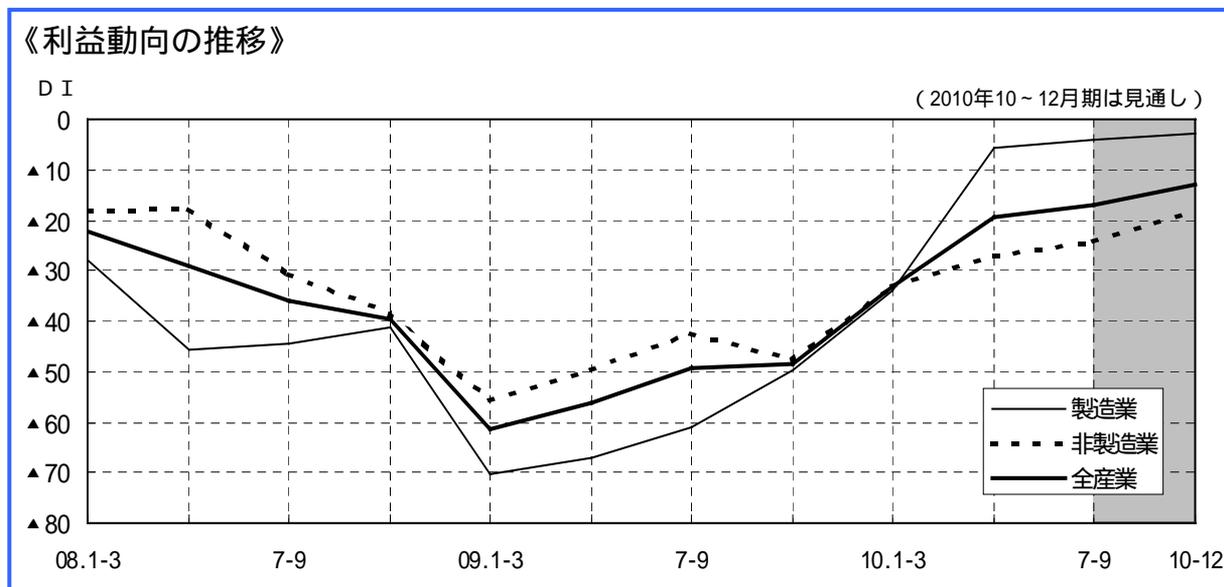
2010年10～12月期（見通し）の予想D Iは、全産業で▲10.1、うち製造業12.9、非製造業▲22.5といずれも今期比若干の上昇となっており、前期までの急速な改善への期待は弱まったものの、引続き期待感維持されている。



利益動向 **D Iの大幅上昇は一段落も改善傾向は継続**

2010年7～9月期の全産業の利益動向D I（対前年同期比）は▲17.0（前期▲19.3）となり、売上と同様前期までの大幅な改善は一段落したが、引続き改善傾向にある。うち、製造業は食料品やパルプ・紙・紙加工品でD Iが低下しているが、一般機械器具でD Iが大幅に上昇、全体D Iは▲4.0（同▲5.7）となった。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所でD Iが大きく改善され、建設業でも若干上向いたため、全体D Iは▲24.1（同▲27.2）とやや上昇している。

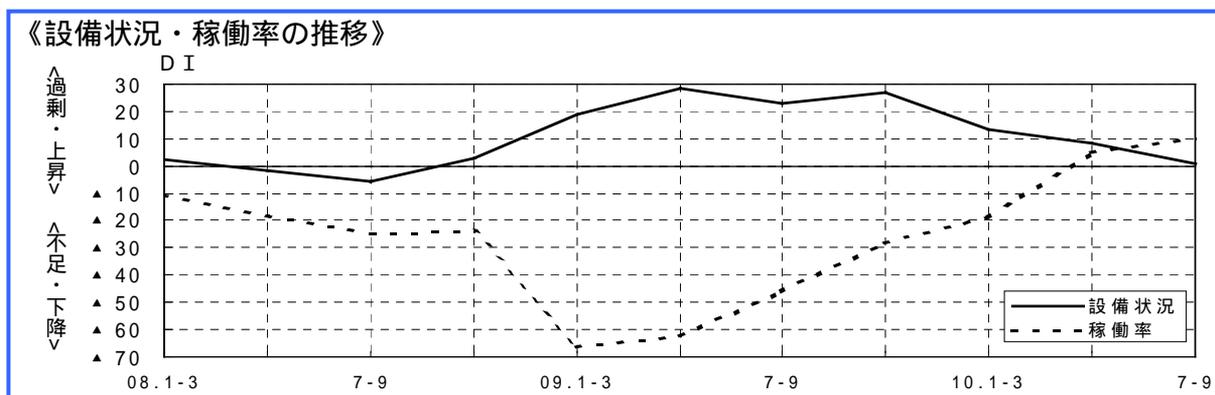
2010年10～12月期（見通し）の予想D Iは、全産業で▲12.8と引続き緩やかな上昇を見込んでいる。うち製造業は▲3.0、非製造業は▲18.2となっており、非製造業で改善への期待がやや強くみられる。



**設備状況・稼働率
(製造業)**

設備状況はほぼ「適正」水準に、稼働率はさらに「上昇」

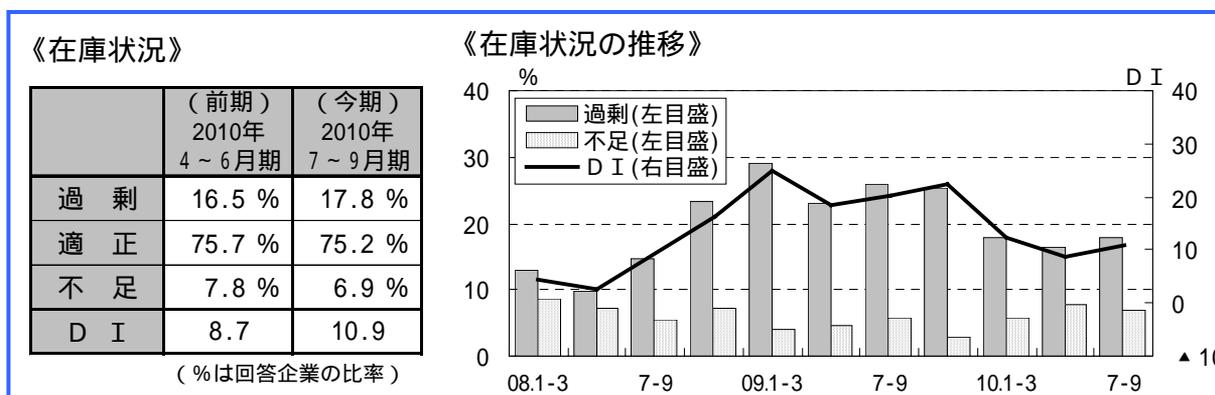
2010年7～9月期の設備状況DIは1.0(前期8.5)と3期連続して低下しほぼ「適正」に近い水準となっている。業種別では食料品や一般機械器具でDIが低下し、過剰から適正もしくは不足に転じている。一方、稼働率DIは9.9(同4.8)と「上昇」の判断がさらに強まっている。一般機械器具やその他製造業でDIの上昇が目立つ。



在庫状況(製造業)

DIは反転して上昇、在庫過剰感がわずかに強まる

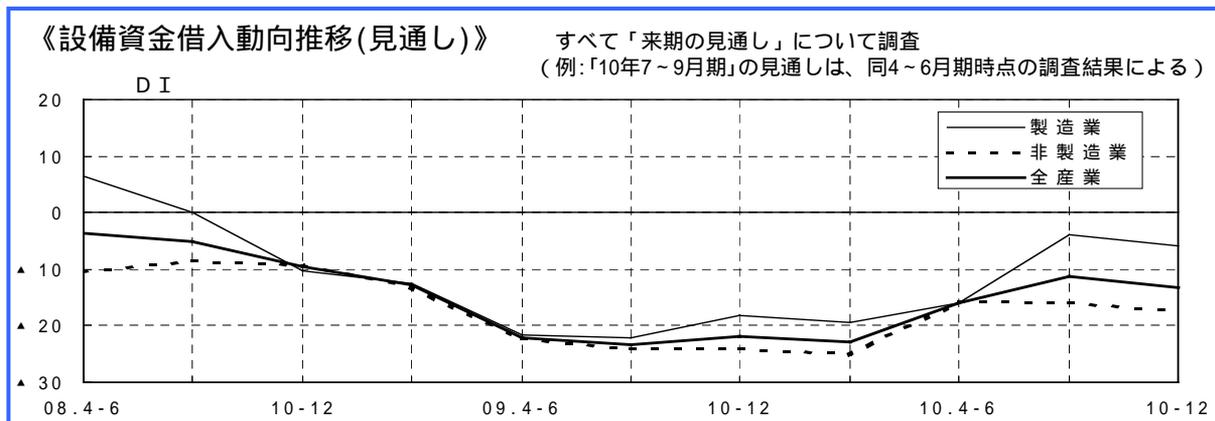
2010年7～9月期の在庫状況(製造業)DIは10.9(前期8.7)と反転して上昇し、わずかながら在庫過剰感が強まっている。ただし「適正」と判断する企業の比率は前期とほぼ同程度で推移している。業種別では、金属製品、一般機械器具などでDIが低下したが、食料品やその他製造業ではDIが上昇し過剰感を強めている。



**設備資金借入
動向(来期)**

製造業、非製造業ともDIが低下に転じる

2010年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲13.2(前期▲11.4)と低下に転じ、借入抑制の基調が強まっている。前期DIの改善が進んだ製造業で▲5.9(前期▲3.8)と低下、非製造業でも▲17.3(同▲16.0)と停滞した動きになっている。



経営上の問題点

「原材料・仕入れ商品の値上がり」の比率が低下

3位までの上位項目は前期と変わらないが、「過当競争・製品安」(48.6%)の比率が若干低下している。また、卸・小売・サービス業を中心に「生産・販売能力の不足」(24.8%)の回答比率が上昇し4位となっている。一方、前期大幅に比率を上昇させた「原材料・仕入れ商品の値上がり」の指摘は17.9%(前期28.7%)と再び減少し、当面の課題としての重要度は相対的に低下している。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	10年1~3月期		10年4~6月期		10年7~9月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	214	73.5	197	68.9	198	68.3	
2. 過当競争・製品安	147	50.5	148	51.7	141	48.6	
3. 人材の育成	97	33.3	95	33.2	95	32.8	
4. 生産・販売能力の不足	73	25.1	59	20.6	72	24.8	
5. 従業員の高齢化	58	19.9	59	20.6	66	22.8	
6. 原材料・仕入れ商品の値上がり	42	14.4	82	28.7	52	17.9	
7. その他経費の増加	36	12.4	44	15.4	38	13.1	
7. 人件費の増加	40	13.7	33	11.5	38	13.1	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	12	▲50.0	▲41.7	▲16.7	▲25.0	16.7	▲25.0
パルプ・紙・紙加工品	21	▲50.0	▲57.1	▲4.8	▲19.0	4.8	▲23.8
金属製品	14	64.3	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
一般機械器具	19	31.6	5.3	0.0	5.3	15.8	10.5
その他製造業	35	31.4	14.3	11.4	25.7	14.3	0.0
製造業計	101	10.0	▲4.0	1.0	9.9	10.9	▲5.9
旅館・その他宿泊所	16	12.5	0.0	-	-	-	▲18.8
その他小売・サービス業等	115	▲19.5	▲21.2	-	-	-	▲10.3
卸・小売・サービス業計	131	▲15.5	▲18.6	-	-	-	▲11.4
建設業計	58	▲39.7	▲36.2	-	-	-	▲30.4
非製造業計	189	▲23.0	▲24.1	-	-	-	▲17.3

特別調査：
夏休み期間中の観光状況

宿泊客数等は前年同期比増加も、利用客1人当たりの
総消費単価は前年比下落、デフレ傾向根強い

東部地域の産業で重要な位置を占める観光業、特に旅館・ホテルを対象に、夏休み期間(概ね7月下旬~8月末)の動向(一部見込みを含む)を質問し、回答結果を集計・分析した(回答施設数15)。

期間中の宿泊客数DIは53.3で、6割の施設が前年比増加と回答している。また昼食・日帰り入浴等の利用客数DIも35.7と堅調で、集客については前年同期と比較してプラスの動きが示されている。さらに売上高DIも20.0となり、地域全体としては前年同期を上回る集客があったことがうかがえる。

一方で、利用客1人当たりの宿泊料や館内消費の合計を示す1人当たり総消費単価DIは▲46.7と大きくマイナスとなり、6割の施設が「前年比下落」としている。高単価の宿泊プランの販売が低調、利用客が価格重視で施設や宿泊日、宿泊プランを選択しているとの指摘がみられ、顧客の価格への意識が敏感になっていることがうかがえる。宿泊料金下落傾向は数年来指摘されているが、今夏もその例外ではなく、デフレ傾向は根強い。

外国人の宿泊客数については26.7%が「増加」としている。

その他、今夏についての特徴(数値以外)として、ネット経由予約の拡大と併せ、宿泊直前まで予約を入れない「間際予約」の傾向がさらに進んでいるとの指摘がみられ、人員配置やコスト管理の面で施設側の対応を難しくさせる要因となっている。

一方で、富士山への登山客が増加していることから、関連する宿泊客の増加を指摘している施設もあり、来年以降の動向が注目される。

【夏休み期間中の動向(前年同期比)】

(%)

	増加・上昇	概ね同程度	減少・下落	DI
宿泊客数	60.0	33.3	6.7	53.3
利用客数(宿泊除く)	42.9	50.0	7.1	35.7
売上高	46.7	26.7	26.7	20.0
1人当たり総消費単価	13.3	26.7	60.0	46.7
外国人宿泊客数	26.7	66.7	6.7	20.0